

英語科 授業づくり講座 “A Hot Sport Today”



授業者 松網 伸也 教諭
(土佐市立高岡中学校)

発行
令和3年7月30日
中部教育事務所



【単元】 第3学年 PROGRAM3 “A Hot Sport Today” (開隆堂)

【CAN-DO リスト形式での学習到達目標】話すこと (発表)

ウ 社会的な話題について聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

【単元目標】

日本で開催されるオリンピックを見に行く Fely 先生に、オリンピック競技に興味や親しみを持ってもらえるように、これまでの retelling を踏まえて、写真や絵を使って、オリンピック競技の魅力について自分の考えを話すことができる。

【単元計画の工夫点】

- * 単元を通して、オリンピック競技について書かれた文を「読んで」「話す」という言語活動を繰り返すことで、「社会的な話題について読んだことについて、自分の考えたことや理由を簡単な語句や文を用いて話すことができる」という資質・能力を育てていくことができる。
- * 本文で扱われているバスケットボールというスポーツの話題に関連させて、オリンピック競技について相手に伝えるという言語活動を設定することで教科書の有効活用がなされている。
- * スポーツの話題に関連させた内容について繰り返し読ませるために、オリジナルのリーディング文を作成している。

第1時～第3時	第4時～第8時	第9時【ゴール】
<ul style="list-style-type: none"> ● 単元のゴールについて知り、本単元の見通しをもつ。 ● 教科書本文を読み、内容について友達に retell する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● オリジナルのリーディング文を読み、内容について自分の考えとともに相手に伝える。 ● 伝える際に、思考ツールを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第4時から第8時まで伝えてきた内容を踏まえて、自分で調べた情報も加えながら、Fely 先生にどの競技がおすすめかを伝える。
トピックを変えながら言語活動を繰り返し、資質・能力を育成する		

教材研究会 (5月31日) での協議内容

【視点1】「読むこと」「話すこと」の技能統合型の言語活動を通して、単元ゴールに向かう単元計画になっているか

時間が進むごとに、生徒が話す内容をどうレベルアップさせたいのか

(伝えるための) 手順を入れた型を活用してはどうか

Retell は慣れるまでが大変なので、PROGRAM1 から取組を始めるとよい



Chromebook の Jamboard 機能を使って協議を行いました。

【視点2】生徒が見方・考え方を働かせる授業づくりになっているか

生徒が読み取りができていないかを見取るために、キーワードを言わせたり書かせたりする

個人に任せるのではなく、ペア・グループでの関わりを通して意欲的に学び合える仕組みづくりが大切

ALT がどんなものにも興味をもっているのかを考えておくといいかも。Do you know? などの問いかけが出てくるとよい



【7月13日 本時 (6時間目/全9時間) の流れ】

1 Review

前時の言語活動で生徒が書いたワークシートをテレビ画面で共有する。

2 Reading & Mapping

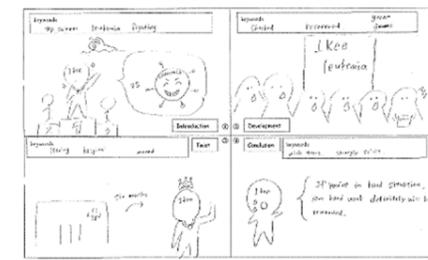
水泳について書かれた文を読み、内容や自分の考えをキーワードと絵にして思考ツールに書き込む。

3 Retelling

- 思考ツールを使いながら、ペアを変えて3回伝える→中間指導→再構築→再度伝える。
- 代表者が Fely 先生に伝えて、質問やコメントをもらう。

4 まとめ

- 発話内容を再構築したものを整理して書く。
- 振り返りをポートフォリオに記入する。



【生徒が使用した思考ツール】

4つの場面に分けられたシートにキーワードと絵を使って書き込んでいる。

……Top swimmers swim six kilometers in one hour. It is as fast as the swimming speed of penguins. It made me surprised. I want to see the swimming……

make などの言語材料を使うことで、説得力が増している。

Japanese people were shocked and I was shocked too. It's because Rikako Ikee had leukemia……

It's because, and などの接続詞が使えており、よりまとまりのある文になっている。

……Then she said, "If you're in hard situation, your hard work will be definitely rewarded." She encouraged me. So I want to say to her, "Thank you very much."

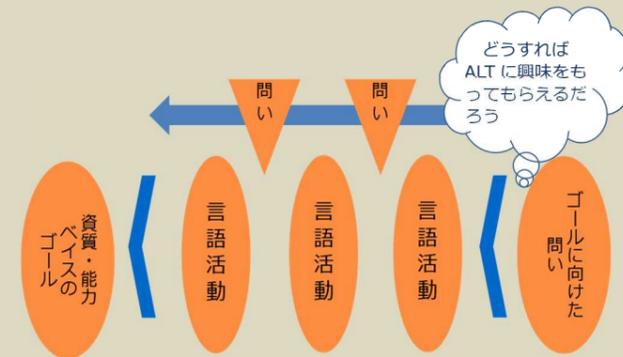
リーディング文から読み取った事実と自分の意見を付け加えて説明している。

【生徒が書いた文 (一部抜粋)】

授業づくり講座から学んだ大切にしたいこと

生徒がコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら活動するためには、単元を通してまたは1時間の授業のなかで、本単元であれば「どうすればALTに興味をもってもらえるだろう」という問いを持ち続けることが大切である。そして中間指導の場面では、「誰に伝えるの?」「何のために伝えるの?」と生徒に投げかけながら再構築を行うと、より伝える相手を意識した文を話すことができるようになっていく。

そのためには、単元の最初に「ALTがなぜオリンピックを見に行くのか」、「そこで何をしたいのか」、「そのためにどんな情報が知りたいのか」等、この活動を行う目的や場面、状況を明確に生徒に伝えておく必要がある。



【新教育課程を活かす 能力ベースの授業づくり p124】

まとめ

話すこと【発表】の指導では、話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成などを考えたり、事実と考えを分けて整理するなど、話す内容を大まかな流れにしてコミュニケーションの見通しを立てさせることが大切である。具体的には、ブレインストーミングで構想を膨らませた後に、スピーチの概要や大筋を箇条書きにしたり、展開を図式化するなどして整理する時間を取ったりすることなどが考えられる。

(中学校学習指導要領解説 外国語編 p25,65)